

登録コード	E7143401	開講年度	2026				
授業科目	I C T活用教育演習Ⅱ B					担当教員	森下 孟
英文授業名	Seminar for ICT Use in Education II					副担当	谷塚 光典
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	ICTを活用した指導・学習に関するテーマを設定し、そのテーマについて、理論的背景、関連する研究や実践事例等を踏まえて、自分の提案する指導計画の詳細を立案し、必要な教材等を作成し、模擬授業を行う。可能な場合には、学校等の協力を得て、実際の現場で授業を行い、撮影されたビデオ等を用いて振り返りを行う。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：テーマ設定のための情報収集と構想 第 3 回：テーマ設定のためのブレインストーミング 第 4 回：テーマ設定のための構想発表とテーマの決定 第 5 回：テーマに基づく資料収集などの経過報告と討議 第 6 回：テーマに基づくデータ分析などの経過報告と討議 第 7 回：構想の中間報告と討議 第 8 回：授業設計の概要の発表 第 9 回：開発する教材などの構想発表 第10回：活用するICT機器の機能などの分析 第11回：具体的な授業案の作成 第12回：授業案の紹介と修正 第13回：模擬授業の実施 第14回：リフレクション 定期試験						
(6)成績評価の方法	・各回の授業に関する課題（50%），ICTを活用した教育に関する専門的知識・技能を実際の授業で効果的できるかの最終試験（50%）。ただし，評価割合は若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：模擬授業で提案しているICT活用授業が，本授業での学習内容を多面的・総合的に取り入れていてさらに独自に調査した内容を極めて効果的に加えていて卓越している。また，授業中の討論及びeALPS上のフォーラムでは，ディスカッションに積極的に参加して他の学生の意見を引き出しつつまとめ役をしている。 「かなり上である」：模擬授業で提案しているICT活用授業が，本授業での学習内容を多面的に取り入れていてさらに独自に調査した内容を効果的に加えていてかなり上である。また，授業中の討論及びeALPS上のフォーラムでは，ディスカッションに積極的に参加しつつ他の学生の意見を引き出している。 「やや上にある」：模擬授業で提案しているICT活用授業が，本授業での学習内容を取り入れていてさらに独自に調査した内容を加えていてやや上にある。また，授業中の討論及びeALPS上のフォーラムでは，ディスカッションに積極的に参加している。 「水準にある」：模擬授業で提案しているICT活用授業が，本授業での学習内容を取り入れていて水準にある。また，授業中の討論及びeALPS上のフォーラムでは，ディスカッションに参加している。						
(8)事前事後学習の内容	・事前事後学習のために，e-Learningシステム（eALPS）を活用して授業を展開していく。 ・事前学習としては，eALPSにアップロードしてある各回の授業での配布物を事前にダウンロードしたり，eALPSに掲載してある関連URLからWebサイトを閲覧したりすることによって，問題意識を明確にしたうえで授業に参画する。 ・事後学習としては，各回の授業で学んだこと・疑問に思ったこと・疑問に思ったことについて調査してわかったことなどをeALPSに記入し，学生間で共有する。						
(9)履修上の注意	・本科目の受講開始前に「ICT活用教育基礎演習Ⅰ」「ICT活用教育基礎演習Ⅱ」「ICT活用教育演習Ⅰ」を履修済みであること。 ・本科目の受講開始前か同学期に「情報機器活用指導法」「情報機器活用論」「マルチメディア教育論」を履修済みであるか並行して履修することが望ましい。 ・当該科目を履修するにあたって必要となる経費（参加費・交通費・食費・文房具代・保険料等）は学生の自己負担とする。 ・授業の前後に必ずeALPSの当該コースにアクセスして事前事後学習に努めること。 ・各回の授業後にeALPSのフォーラムで意見交換をすること。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	・ 附属次世代型学び研究開発センター2F 森下研究室 E-mail：morisita@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：（前期）メール予約で随時対応 （後期）メール予約で随時対応
【教科書】	・ 稲垣忠編著『教育の方法と技術 Ver.2：IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』北大路書房，2022年，2,200円＋税
【参考文献】	・ 鈴木克明・合田美子監訳『インストラクショナルデザインとテクノロジー：教える技術の動向と課題』北大路書房，2013年 ・ 文部科学省Webサイト「教育の情報化の推進」 （ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm ） ・ その他，授業の中で適宜紹介する。